図書館だより

天理高校　図書館　2023年９月

読書の秋の始まりです

９月というのに、まだまだ真夏のような暑さが続いていますが、みなさん、いかがお過ごしですか。2学期も新着本や、特別展示本など、どんどん本を紹介したいと思っています。読みたい本があれば、遠慮なくリクエストしてくださいね。

まず、今年度新しく着任された「先生方からのおすすめ本」紹介です。みなさんに読んでほしいとおすすめしてくださった本です。私も、読みましたが、一気に読んでしまう本ばかりです。みなさんも、ぜひ手に取ってみてください。

１学期長期貸出で借りた本の返却をお願いします。返却場所は、返却ポスト、カウンターどちらでもかまいません。ご協力お願いします。

「先生方からのおすすめ本」特集!!

『すてきな三にんぐみ』　トミー・アンゲラー　（偕成社）

誰がみても恐ろしい姿の3にんぐみが、最後にはみんなに感謝される、素敵な3にんぐみへと変身します。物を盗むということは悪いことですが、それがもし、誰かに喜んでもらうための行動だとしたら。簡単に「悪いことだ」と言い切れない部分がありますよね。その人の行動や見た目のような表面的な部分でその人を判断せず、心の内側である内面的な部分に目を向けた時、嫌な人だと思っていた人でも、素敵な人に変身することがあるということを、この本は教えてくれました。

この作品だけでなく、絵本には心が温まる、優しい気持ちになれるものがたくさんあります。勉強に部活に忙しいみなさん、サクッと読めて、リフレッシュする事ができる絵本を、ぜひ読んでみてください。

（国語科　尾身郁栄先生）

『コウノドリ　命がうまれる現場から』
ナビゲーター　鴻島サクラ　原作・イラスト　鈴ノ木ユウ　（講談社）

人が生まれてくるという“奇跡”を目の当たりにしてみませんか。命が誕生するまでに母胎で何が起きているのか、産科医や助産師はどうやって命と向き合っているのか、この　１　冊で、妊娠、出産の基本的な知識が身につきます。生まれてくる命と、あきらめざるを得なかった命。そして、懸命に生まれてこようとする命を、お母さん、お父さんとともに支える産科医や助産師の姿を描いていて、真の「命の現場」を知る事ができます。私たちの命はいろんな事を乗り越えて、今、ここに存在することを実感できます。

この本を読んで、あきらめざるを得なかった命があることを知り、精一杯、自分の周りの命、自分の命を、身体を大切にしてもらいたいと思います。（家庭科　前田和巳先生）

マンガも
あります！

『竜馬がゆく』　司馬遼太郎　（文藝春秋）

土佐（現在の高知県）の郷土の次男坊に生まれながら、ついには維新回天の立役者となった坂本竜馬の奇蹟の生涯（歴史小説）。

『世に生を得るは　事を為すにあり』幕末の激動期に生きた竜馬を中心とした多くの若者達の青春群像を壮大なスケールで描いた司馬遼太郎のベストセラー。

閉塞感漂う現代社会、未来を担うみなさんが、今をどう生きるべきかを考える機会（きっかけ）になればと思い推薦しました。

（教義科　王子久則先生）

『きみが見つける物語』　坂木司　他　（角川書店）

１つ１つのお話が短編なので、ちょっとした時間でも読みやすいです。友情編ということで人との関係性は見どころ（読みどころ!?）の１つだと思います。親友だったり、初対面だったり、家族だったり、ライバルだったり、様々な関係が織りなす中で生じた事件をきっかけに、関係性は変化し、そこから生まれた新たな感情が、読者を引き付けます。短編で読みやすく、読んだ後、心に余韻が残る傑作です。本を読むのが苦手な人、時間が無いけど本が読みたい人、ぜひ読んでください。（音楽科　橋本育美先生）

『運転者　未来を変える過去からの使者』
喜多川泰　（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

主人公の岡田修一は毎日、不幸続き。ある日、タクシーに乗り、その運転手との出会いが、彼のこれまでの価値観・考え方を変え、人生まで変えていくというお話です。

細かいところまで、しっかり書いてある本なので、読みやすいです。自分の生活に照らし合わせる事が出来るので、ハマる人はハマると思います。小説が苦手な人でも読みやすいと思います。話の伏線回収も良かったです。結果が出ないと視野が狭くなりがちですが、この本を読む事で色んな事に気づく事ができると思います。頑張っているのに結果がついて来ないと悩んでいる人、ぜひ読んでください。

（Ⅱ部教義科　島道男先生）